

山尾、月光を浴び真剣をふるっている。

(FO)

芸妓の三味線に黙々と杯をあおる（長州ファイブ）の5人。

聞多「皆、どねーせたんか。外国行が恐ろしいんか。こりやー我らが宿命じゃ。国を捨てるんじゃなえー。我らは生きたる機械となつてこの国へまた戻つて来るんじゃ。さ、弥吉、唄わんか。俊輔、踊らんかえー。さ、景気よー太鼓を叩け。最後の日本の夜じゃ」

酔いにまかせ、踊り出す弥吉に手拍子をとる一同。

山尾「やめんか！」

一同、静まると、

山尾「よーそねーな気分でおられるのー聞多。我らには確かに使命がある。日本最後の夜じゃからこそ、お互いの意志

を統一せんやーいけんじや
ならん

弥吉「へじゃからこねーせてお互い楽しんでるんじゃなえーか。固えー事はやめよーだよ」

山尾「酒を飲ーで、うかれちよるだけじゃなえーか」

弥吉「どこが悪々。酒を飲ーで、それぞれがそれぞれの心の中でこの国へ別れをつげよるんじゃ。そのどこが悪々
んか」

俊輔「山尾、何を言いたいんか」
ならん

山尾「我々にやーやらんやーいけんじやがある」
ならん

聞多「やらんやーいけんじや？」

俊輔「そりやー何か」

山尾「武士であることを捨てるべきじゃ」

一同「!!」

山尾「一同。今、我々は真の攘夷のため、この国のため、死を賭けて異国へ行こうとせちよる。その覚悟とせて、侍を捨てるべきじゃ」

俊輔「どうゆうことか」